

立命館大学稲盛経営哲学研究センター 教育実践研究誌

RITA

利他の心で

教育を変える

仕事がおもしろくなる

vol.

1

利他の心で教育

RITA
and
EDUCATION

利他のDNAを
世界へ、
そして未来へ



RITA
LABO

R
RITSUMEIKAN

RITAE 発刊にあたって

稲盛経営哲学研究センターに、2015年10月に設立した利他ラボ (RITALABO) では、稲盛和夫名誉研究センター長 (京セラ株式会社名誉会長) の「利他の心」をはじめとする経営哲学・フィロソフィをもとに、初等中等教育を中心とした教育プログラムの研究開発を行っています。私たちは、教育を通して、稲盛氏の構想する「人を思いやる心が、地域、国、世界へ広がる社会づくり」の基盤となる、ソーシャルな課題に向かう人づくりに挑戦します。

学校教育と利他ラボ (RITALABO)

稲盛経営哲学研究センター 副センター長 (教育担当) 倉石寛

発達段階の観点から

稲盛氏はその経営哲学として、企業経営において経営者となるリーダー自身がフィロソフィを持ち、人格を高め続けることが最も重要な点だとしています。とするならば、成長段階にある子どものうちに教育によって人格を高めるこ

とができれば、よき経営者がより多く育つ可能性が高いのではないでしょうか。

脳科学の研究に基づく4-4-4制 (現状の小・中・高の6-3-3制に替わる学制) の発達段階の観点で見ると、小1-小4 (1st-7歳-10歳) の期間は「感情をくぐりぬけた体験 (感情を通して自分ごととして物事を理解する体験) により人格形成の基礎が作られる」時期、小5

と中2 (2nd-11歳-14歳) は「調査・実験に関心を持ち、他者と協働し論理的思考を育てる」時期、中3-高3 (3rd-15歳-18歳) の期間は「異質なものの (異文化体験等) と触れ合い自己を相対化しつつ個性を伸長し、主体性を確立する」時期にあたります。

稲盛氏の哲学の根幹をなす「利他の心」相手

達段階で、人との関係を軸とした学びで育んでいくことが重要です。

人材育成の視野を広げる観点から

RITALABOは、利他に関わる教育プログラムの実践研究や交流を担う、利他教育研究の中心地 (RITAIvarey) となることを目指しています。このような場で、利他の心を軸とする高い倫理観を持った子どもを育み、彼らが国内外の上級学校進学、その後の就職・起業など、高校卒業後のそれぞれのステージで活躍してほしいと考えています。

初等中等教育での利他教育は、子どもたちがそれぞれの人生で利他の心を伸ばしながら人格を高めるための素養を獲得し、社会に出ていくための基盤となります。

学校経営の観点から

稲盛氏の提唱した、アメイバ経営に代表される経営手法を研究し、その仕組みを応用した新しい学校経営モデルの開発に取り組み、「ナベブタ式」 (校長と大勢の職員) の学校教員組織、「学級王国」と呼ばれてきた教室運営などの改革へ向けた適用を検討していきます。さらに「学校」という枠組みを超え、地域の大人や企業人が「利他の心」でつながり、子どもに影響を与える教育モデルを開発。教育分野における稲盛氏のフィロソフィ具現化に貢献したいと考えています。

利他教育とアクティブラーニングの関わり

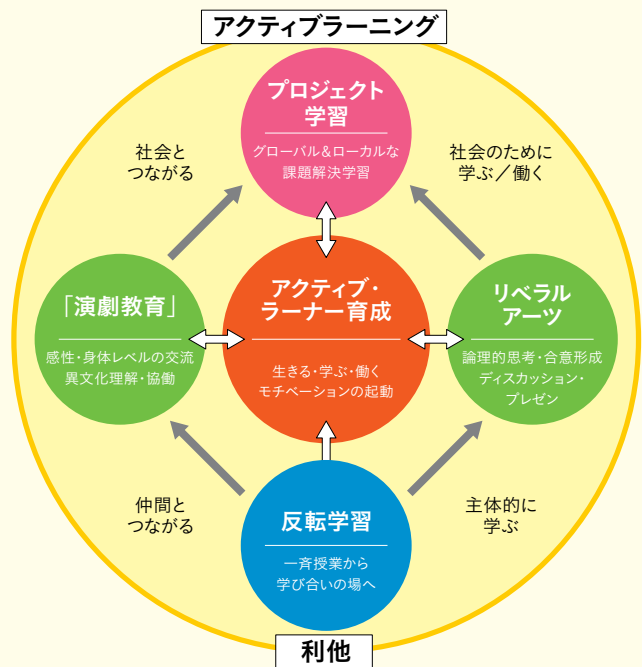
稲盛経営哲学研究センター 客員教授 (RITALABO担当) 金井文宏

稲盛経営哲学研究センター 教育実践研究誌「RITAE」では、特に利他教育とアクティブラーニングとの関係に着目し、RITALABOの教育実践研究をはじめ、先進的なアクティブラーニングの取り組みを紹介していきます。

次の図は、学習者が能動的に学ぶアクティブラーニングを軸に学校教育のあり方を考えた図です。ベースになる「反転学習」は、教員が教科の知の体系を教える一斉授業を「反転」して、優れた講義をビデオ化した教材等をホームワークで学び、学校の授業ではグループワーク等で応用的な問題の解決を考えます。グループワークでは子どもたち相互が教え学び合うこと (利他) を重視します。

「リベラルアーツ」の授業では、教員の設定した論点・テーマについて議論し (切磋琢磨という「利他」創造的に思考し、真理や合意形成等を追求します。

「演劇教育」は、表現やコミュニケーションのあり方を、言葉



RITAE LABOが考えるアクティブラーニングを軸とした学校教育のあり方

「利他」は学びのモチベーションになる。

―稲盛経営哲学を教育に活かす

稲盛経営哲学と出会うことで、教育はどのように変わる可能性を秘めているのか。
現在の教育現場の課題と照らしながら、RIT A L A B Oに関わる2人がその展望を語ります。

【対談】

稲盛経営哲学研究センター客員教授
(京セラ株式会社より出向)
高津正紀

学校法人立命館常務理事
(一貫教育担当)
川崎昭治

人類の発展は「利他」の心から。

川崎 教育に携わる者として最近気になるのは、保護者や先生の多くが、子どもたちに「いい学校を出て、いい会社に入る」という人生モデルを強いていることです。それで、「子どもたちは何のために勉強するのか?」と問うと、「自分のためでしょう」と言う。教える側も利己的な価値観に依拠してしまっているのです。

しかし、人類の長い歴史を考えると、人と人との関わりの中で脳が発達していったことがわかっています。誰かと一緒に何かに取り組んだり、誰かのために行動したりすることで、人は幸せを感じるようになっていく。モノづくりをする技術者も、ご飯を作る親も、喜んでくれる人がいるか

「利他」の心が人を成長させる。

川崎 現在の教育現場は知識の吸収

に偏りがちで、「利他」という価値観を意識する機会はほとんどありません。しかし、私は「何のために学ぶのか、生きるのか?」を問うこと、すなわち利他を学びのモチベーションとしていくことで、子どもたちは成長すると信じています。

以前私が校長をしていた北海道の立命館慶祥中学・高校にベトナムに研修に行った女子生徒がいたんですよ。そこで病院を見学したのですが、腕に赤のマジックで印がついている子と、青の印の子がいる。よく見ると、赤の子のミルクは透き通っていて、青の子のミルクはとても濃い。先生に聞くと、赤の子は助からない子、青の子は助かる可能性のある子だということで、彼女は泣いて抗議したんだそうです。命は平等やないん

ですかと。でも、全員を助けようとする、助かる子も助からなくなる。仕方ないという先生の言葉に納得できず、その時初めて、本当に勉強したいと思ったそうです。勉強して医者になって、この問題を解決したいと。これはもう、自分のための勉強ではないですよ。人を助けたいという思いが、学びへと駆り立てている。

「学力」よりも「人間力」。

高津 核家族が増え、近所付き合いが希薄になり、子どもたちが異質な人と交わる機会が減っています。昔は近所に住んでいるいろいろな考えを持った人たちと接する中で、「多様な人がいる」ことを意識しなくても学べたのです。私も商店街で育ちましたが、近所には怖いガンコ親父がいて、子どもたちは悪いことができませんでした。モノの貸し借りも

しよっちゅうで、濃密な人間関係が当たり前のようでありました。このように人と関わりコミュニケーションをする中で、真の善意や信念、他人への思いやりなど「人間力」が養われて行つたのではないのでしょうか?

川崎 そうですね。気になるのは、「企業がコミュニケーションを求めている」と言うのと、親も子も安直に身につけようと、表面的な協調性だけをとり入れてしまうこと。コミュニケーションって、もっと多様で複雑なものなのに。

高津 企業も見抜いていますよ。企業が採用面接の際に見ているのは総合的な「人間力」です。学力は正解に早くたどり着けるという点に関する評価ですが、仕事においてはそもそも「これが正解」といったものはなく、社員同士でチームを組み、手探りで課題解決への道筋を切り開かなければいけません。そこで、人間力がものを言うのです。「人間力」の中で最も大切なものが「利他」だと思います。

「アメーバ経営」を学校経営にも。

川崎 もう一つ、「アメーバ経営」にも関心を持っています。私は、企業内に小さな組織単位を設け、リーダーとフォロワーが共に経営の実を問う働き方をする、それがアメーバ経営だと考えています。これを学校組織にも持ち込んでみたい。現在の学校は、寺子屋の枠から脱することができず、教員が各自勝手に教育をしているような状態です。京セラや再生されたJALのように、学校がチームや組織としてどれくらい力を発揮できるか、というテーマにチャレンジしてみたいのです。

高津 稲盛さんは、組織の運営にはまず、その組織の目的・意義を明確にすることが大切だと言っています。次に具体的な目標を立て、それを達成するために必要な管理指標をしっかりと考えなければなりません。学校経営も同様ではないかと思えます。しかし、本当の意味で教員が学校のビジョンを理解し、実践に努力している学校が、今の日本にどれほどあるでしょうか。報道にもあったように、目の前の職務をこなすだけになってしまっているのが現状だと思います。

「よい考え方や志を育てるのが、利他の心」。大人が教えていかなければ(高津)

「自分のためだけに生きていくと、目的を失くして自分探しの堂々巡りに陥ってしまう(川崎)」

今、各学校で取り組みが始まっているアクティブラーニングでも、「競争」ではなく「協働」が重要なポイントとなっている。



京セラと立命館の出会い

はじまりは、2005年、京セラがオーナーとなっているJリーグのパープルサンガの選手のために、立命館が講座を提供したこと。稲盛さんが、発信力の高いアスリートが高い教養を身につけたとき、社会にいい影響を与えることができると考えたからだという。

「天に栄える村」の 米づくりが 教えてくれたこと。

福島・天栄村の田んぼ再生プロジェクトに
高校生や海外への留学生が参画し、
若者・よそ者の視点でソリューションを提案。



生徒が自分たちで 答えを見つける 主体的な学びへ。

反転学習、ICT活用、
ワークショップ型授業など、
アクティブラーニングに取り組む
立命館大学附属校教諭の挑戦。



私

は、大学の「教育原理」の授業で、日本の教育史を教えています。が、ここ数年、二宮尊徳の学びに感銘する学生が増えています。「度重なる洪水で荒廃した田畑の復興もかなわず両親を心身疲労で亡くし、叔父の家で育てられた尊徳は、農業を手伝い、薪集めをしながら、寸暇を惜しんで学ぶ。長じては農業の専門家となり、藩の治水や田畑の再生等の公共的な事業に尽くす」というストーリーは、就職活動に追われ悩む大学3年生たちに共感を呼ぶようです。厳しい家庭環境下、経済的に自立した尊徳が、人生の後半で社会貢献のために生きるという利他の生き方は、^レゆとり教育^で、総合的な学習を学んだ世代にも浸透します。

2013年の内閣府の調査（我が国と諸外国の若者の意識に関する調査）では、日本の子どもたちは、自己肯定感や主体的に学習に取り組む態度、社会参画への意欲が低いことが指摘されていますが、それは生き方への共感・感動を呼び起こ

RITA

特集

利他の心

と

教育

志と協働を支える
「利他の心」が教育に
どう活かせるのか？
展望を探ります。

すような教材と授業が学校教育で用意されていないからではないでしょうか？

社会科学では、歴史的社会的な分析はあっても、人間の生き方に迫るような授業はしません。国語科でも文学作品への解釈はありますが、利他の心で生きた実在の人物の生き方を深めることはありません。他方、ア

メリカの学校では、マルチン・ルーサー・キングやジョン・F・ケネディのような現代史の人物を取り上げて、その演説や生き方について議論しています。

戦後の「20世紀型」の日本の学校は、知識の体系である学習指導要領に基づいた教科書の内容について、知識再生型のテストで確認するスタイルです。一斉授業で既存の知識体系を理解・暗記させて、効率よく、いかに正解できるかという評価が行われます。

一方、「21世紀型の学力」は、知識を習得する学習プロセスの中で、どのような思考をし、資質や能力を育めるのかということを重視し、学習方法を体得し自ら学び続ける「アクティブ・ラーナー」を育てることを目指しています。

教育学者の佐藤学氏は「21世紀型学力」について、「創造的な思考・探究能力」と「協同するコミュニケーション能力」としています。

創造的な思考・探究能力を育むためには、教師自身が教科内容の本質を深めていくことが求められます。

協同するコミュニケーション力は、授業でのグループワークやプレゼン、クラスづくり・学校づくりで実践的に身につけるもので、教師のファシリテーション力が鍵となります

2015年8月、中教審教育課程

企画特別部会では、アクティブラーニングの意義として、「思考力・判断力・表現力は、主体的・協働的な問題発見・解決の場面を経験することによって磨かれる。特に実社会や実生活に関連した課題などを通じた動機付けを行うことで、学びの興味と努力し続ける意義を喚起する必要がある」としています。

①の特集では最初に、原発災害というグローバルかつローカルな深く重たい課題に取り組む福島県天栄村の課題解決の実践（プロジェクト）に学び、大学生や高校生が自らの生き方を問う「プロジェクト学習」を取り上げます。

特集の二つ目では、立命館大学附属校で取り組まれている「反転学習」などの先端的なアクティブラーニングの取り組みを紹介しします。

なお、次号では引き続き「利他の心と教育」をテーマに、リベラルアーツの授業、平田オリザ氏の演劇教育を取り上げる予定です。

稲盛経管学研究センター 客員教授 RITA ABO 担当

「天に栄える村」の米づくりが 教えてくれたこと。

日本の教育の未来を創る「アクティブラーニング」という考え方には、自ら主体的に学び続けるという学習者像がイメージされています。プロジェクト学習では、地域やグローバルな課題に取り組み人々に学び、課題解決に学習者も参加・参画して、思考力・探究力と主体的・協働的な問題発見・解決のあり方を学びます。その学びはいったいどのように進むのか、実際の学習プログラムの様子を紹介します。

プロジェクトの概要

原発災害から田んぼ再生に立ち上がった天栄村の農家の方々と村役場の吉成課長（産業振興課）の協力により、NPO法人留学フェローシップが実施した「天栄村プロジェクト学習@福島」。事務局長の金井文宏、副理事長の倉石寛（ともに立命館大学教員）が企画し、日本から海外に留学している留学生7名と、関西・東京および東北在住の高校生8名が参加しました。

福島県天栄村は、原発災害後の除染から田んぼ再生・収穫までを映画にし、大都市で上映して取り組みをアピール。福島産農産物の風評被害から脱却しようとしていました。

原発災害という課題に、正面から取り組む天栄村の人々の「田んぼ再

生プロジェクト」に、留学生・高校生そして教員も参加して、「学ぶ」「働く」「生きる」ということの意味を考えるという趣旨で、2015年8月9日～11日の3日間の学習プログラムを実施。天栄村には9日夕方から入り、学習は10日朝の田んぼでの除草作業からスタートしました。

プログラムに参加したM-I-T（マサチューセッツ工科大学）2年の前田智大さんは、「M-I-Tというブランドのある大学に入ったからには、成功しないといけない、とプレッシャーを感じていた。でも、目の前にある課題に真剣に取り組む天栄村の人たちを目にしたことで、自分が些細なことに悩まされていたことに気づいた。まずは目の前にあることを片付けていこう、と吹っ切れた」と、学びのモチベーションの転換について語っています。

学習の流れ

前泊	13:00	福島市常円寺で開講・阿部和尚の言葉
		バス移動
	17:00 19:00	天栄村役場職員、農家の方々へ自己紹介 農家へ民泊 ～農家との対話～
1日目	8:00	天栄村の田んぼに集合。プロジェクト学習スタート
	8:30	田んぼでの除草作業体験
	11:00	農家の方々との質疑応答
	13:00	映画『天に栄える村』を鑑賞
	15:00	天栄村吉成課長のレクチャー
	16:30	ワークショップ1（3グループ）
		「田んぼ再生にかけた村の実践と人々の思いを理解する」
	18:30	村の子どもたちとの交流、和太鼓演奏 （今日の体験・質疑応答・映画・レクチャーのリフレクション）
	19:30	農家へ民泊 ～農家との対話～
2日目	8:00	ワークショップ2（3グループ）
		「天栄村再生に向けて、都市に住む留学生・高校生が協力できること」
	11:00	農家の方々の前でプレゼンし、講評してもらう
	12:00	解散

雑草を抜くのは大変だけど。土と触れるのは楽しい。思わず笑みがこぼれます。



1日目

天栄村の
田んぼを感じ、
人々の思いを知る

プログラム①

田んぼで除草体験

朝8時30分。天栄村プロジェクト学習は、田んぼでの除草作業から始まりました。初めての土の感触に驚きつつ、やがて夢中で雑草をひいた2時間半。「減農薬や無農薬でやっている田んぼは、除草剤を使わないため、人の手で除草をしないといけません。除草しないと雑草に栄養を取られて、風通しも悪くなる。日も入らなくなってしまうです」。天栄米栽培研究会会長の岡部正行さんはそう語ります。自分たちがこのプログラムに参加することで、少しでも役に立っているのだからか？ そんな参加者の不安を打ち消すように「除草、ご苦労さま」と、岡部さんが声をかけてくれました。

泥んこになった手足をタンクの水で洗う



稲穂の実入りは、
温度管理次第
なんです



田んぼのレクチャー おいしいお米を作るには？

天栄米栽培研究会副会長
内山正勝さん

天栄米栽培研究会では、食味コンクールでの日本一獲得を目指して、日々研究を重ねています。有機肥料・無農薬でも、おいしくないとね。1年置いてもおいしいお米が理想です。

悩みの種は、天気や気温。粒の数は、温度管理で決まるので、手入れが大事なんです。昼夜の温度差がある方が、稲の実入りがよく、おいしく育ちますね。昔は、はだして田んぼに入っていたので、稲の発育温度もわかっていた。さらに、酸素が入って有機肥料がよくなるというメリットもありました。

ここ数年、温暖化の影響で、盆地だけでなく、山間部の天栄村でも高温障害が起こっています。実は、真夏日が増えるとお米はおいしくなくなるので、地球温暖化は困るよね。おいしいお米を作るには苦労も多いですが、皆さんの「おいしい！」という声を励みに、がんばっていききたいと思います。



天栄村の農家で民泊を体験。早朝に散歩すると、美しい山と田んぼが迎えてくれました。

「プログラム②」

農家の方との質疑応答・映画鑑賞・レクチャー

11時。除草作業を終えて、参加者から農家の方に「本当のところ」を聞く質問タイムに。天栄村産業振興課の吉成さんと、農家の皆さんとの強いきずなが窺い知れます。

◆ 学生 米はどれくらいの価格で売れますか？

農家 研究会で販売しているお米の価格は1kg800円〜1000円程度。販売方法は、村内の道の駅を中心に、地元百貨店やインターネット、口コミなどが大部分ですね。今年は新聞の大懸賞の景品に選ばれ、1kgの天栄米を3000人の当選者にお送りします。

学生 後継者問題はどうですか？

農家 息子が継いでくれる予定です。消費者・飲食店に直接売るので、生産費用に見合う価格で売れて、十分生計を立てられるので、個人で持っている顧客を息子に引き継ぎます。

学生 個人で販路を開拓しているんですね。「日本一の米を学びたい」と外から移住してきて農業をしたい人には、どう対応しますか？

吉成課長（以降、吉成） 歓迎します。

年間20件以上視察に來られて、聞かれれば、この農法のすべてを教えてください。この頃は自然農法が流行っていますが、この生活スタイル自体が自然農法的なので、定着する人も多いです。

学生 TPP、農産物の貿易の自由化についてはどう思いますか？

吉成 平成18年にWTOでコメの自由化が可決された時、「日本では農地の多くを占める水田に稲作以外の代替作物はない。米が作れなくなると日本の農村は終わりだ」と考えました。「ブランドトップの魚沼が最後まで残れる地域だと思う。われわれはその上の米づくりをめざそう」と農家の皆さんと話し合い、翌年、「日本一の米づくりをしましょう。有機無農薬の伝統の米づくりをベースに」と研究会を始めたんです。そして、村で一番、条件が良くないと言われていた山間部で一番おいしい米を作った。そこで、平地で農業をやっている人も皆がんばって米づくりを始め、次々と賞をとるようになりました。

学生 最終的にはどんな天栄村にしたいのですか？

吉成 お米づくり日本一の村で、田舎の原風景を残して、後継者もちゃんという村にしたい。あと、天栄村はがんばって作っても6万俵、日本人1人

が年間1俵食べるとしたら6万人しか食べられない。食糧自給の観点から日本の米づくりを広げていきたいです。

学生 日本一の米づくりが軌道に乗った時に起こった放射能汚染に迅速に対処されましたが、風評被害についてはどうされていますか？

吉成 「風評なのか、実害なのかかわからない状況ですが、除染の努力をしている農家さんは、いっぱいいるというのを理解してほしい」「限りなく0にしたい、元通りの福島にしたい」と訴えています。消費者も「放射能0なんて無理じゃないかと見学に來られますが、「農家の方がすごい努力していることがわかり、意識が変わった」と言ってくれる人も多いです。

農家 私たちは、自分の子どもに食べさせられるか、を基準に米づくりを考えています。自分たちがここで

何もしなければ、福島は農業の未来もないと。現在、福島は、日本中の原発の問題のしわ寄せを受けて風評被害にさらされていて、それがくやしいです。役場の吉成さんたちにいろいろしてもらって、折れそうな心を支えてここまでやってきました。長崎に住まいの方から「母が被爆して、私は被爆2世です。自分も自分の子どもも放射能の影響があるか不安だった。長崎も緑と農業がよみがえり、地元のもの食べている。風評被害が大変だと思っけど頑張ってください」と、励ましの言葉をいただき、ありがたかったです。

◆ 質疑応答から、農家の皆さんの生の声を聞いた学生たち。天栄村がかかえる課題の重さ、そしてそれでも前を向いてがんばっている農家の皆さんと村役場の努力を知りました。



上／映画『天に栄える村』を鑑賞し、原発災害からの復興のストーリーを頭と心で受け止めます。
下／天栄村役場の吉成課長からのレクチャー。映画で語り切れなかった思いを伝えます。



原発災害、除染、米作り再開：天栄米復活のドキュメンタリー『天に栄える村』

人口6000人ほどの里山に囲まれた小さな村、天栄村。そこには、日本一おいしい米づくりを目指す農家のグループ「天栄米栽培研究会」がありました。米のおいしさを競うコンクールでは、4年連続金賞を受賞し、天栄米はブランド米として着実に歩み始めます。そんな矢先の2011年3月、東日本大震災が起こりました。この村にも原発事故で放出された放射性物質が降り注ぎ、田畑は汚染されてしまいました。

それでも農家はあきらめるわけにはいきません。「出来ることは何でもやろう」と、科学的な調査を元に、いち早く放射能汚染に立ち向かいました。

原発災害を乗り越えようとする農家を追うドキュメンタリー作品。各地で自主上映会が開かれています。



企画 制作：桜映画社
撮影協力：天栄米栽培研究会
※自主上映会などのお問い合わせは
桜映画社 (03-3478-6110) へ。
<http://www.sakuraeiga.com/tensaka/>



2011年3月11日の地震の後発生した原発災害。天栄村の鳳坂峠は、アメリカ軍が危険区域とした80km付近にあり、村役場付近は、5月の段階で5.3マイクログシーベルトの放射能値が検出されました。水蒸気爆発で上がった雲の中にセシウムやストロンチウムがあり、放射能を含んだ雪が降りましたよ。県からは「農作物は全て収穫してはダメ」という以外指示もなく、「自分たちで考えて行動する」しかなかったのです。

3月24日の朝、県内の有機農家さんが自殺しました。その日の晩、天栄米栽培研究会会長で、30数年間無農薬を続けてきた農家の方が来られてね。「彼も死ぬかもしれない」と不安になって、かけた言葉は「大丈夫、作れるから」。そこから、どうすれば米が作れるようになるかを考え始めたのです。

3月30日、研究会の臨時例会。農家は全員参加しました。私は、この日までに指針を示したいと、インターネットで除染につ



いて集中的に調べ、「ゼオライト」「塩化カリウム」「プルシアンブルー」「微生物」、中でも染料の「プルシアンブルー」が最も除染効果があると知りました。「4つの方法を組み合わせる」と説明し、4つの除染法に関する日本を代表する専門家に連絡を取りました。プルシアンブルーは、セシウムを選択的に捕まえる性質があるため、専門家の協力を得て、浸した布を農業用水路に置きました。付着した放射能の濃度から、放射線量の分布を把握し、図をつくりました。そして、震災の2か月後には田植えを始め、秋に収穫。放射能値は基準以下でしたが、やはり売れなかった。そこで次の年、さらに除染を徹底し、放射能値0（検出せず）にして、お米のコンクールに出品したところ、1人の農家が金賞を受賞。でも、売れない。そこで、除染の取り組みを撮影した映画『天に栄える村』を上映して、農家の取り組みと放射能値0を訴えました。その成果が、今では多くの方が天栄米を指名買いしてくださるまでになりました。農地を未来の人たちにわたすために、放射能との戦いは今も続いています。

農家を守るためには、前を向くしかなかった

3.11の原発災害と「天栄米」復活への道

天栄村産業振興課課長 吉成邦市さん

「プログラム③」 ワークショップ1

10日の天栄村での留学生・高校生
の学び——田んぼの除草フィール
ドワーク、田んぼ再生に取り組み農
家・村役場との質疑応答、除染と米
作りを記録した映画の鑑賞、天栄村
産業振興課長の吉成さんからのレク
チャー——のすべてを振り返り、天
栄村の人々のプロジェクトをトータル
に理解するワークショップを実施。

「原発災害後の放射能汚染された田
んぼを除去して再生する。そして米
づくり日本一の農家の取り組みを再起
動する」という農家グループ・村役
場の地域課題解決のプロジェクトその
ものから、グループワークで、苦難
を乗り越えるレジリエンス（折れない
心）、働き方やチームワークの組み方、
地域再生の方法を学んでいきます。



3つのグループに分かれて議論する学生たち。

2日目 自分事として 協力プランを提案

「プログラム④」 ワークショップ2

ワークショップ1を踏まえて、主と
して都市圏域に住む留学生・高校生
が天栄村再生にどのように参加・協
力できるか提案。農家や村役場から
の講評を受けました。これで「天栄
村プロジェクト学習@福島」はすべて
終了。参加した留学生・高校生にとっ
て、大きな学びの機会となりました。

主催者総括

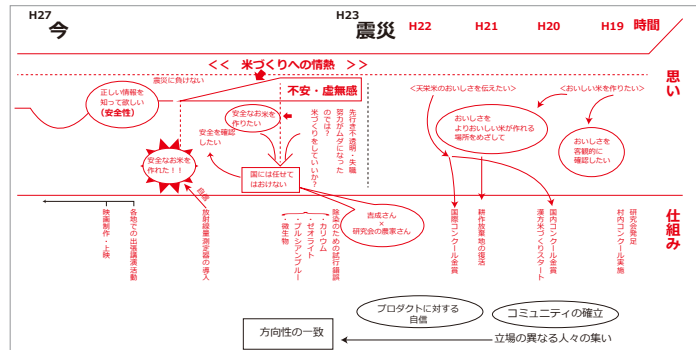
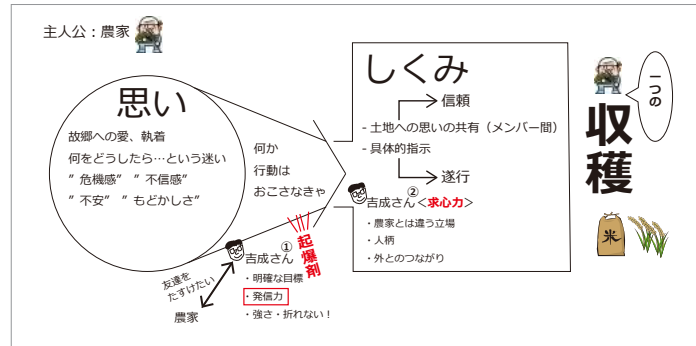
天栄村の人たちは、原発災害から
の村の再生と天栄米復活という困難
なプロジェクトに、村役場と農家の

チームワークで先鋭的に取り組まれ
ていました。

このプロジェクトに、海外でアク
ティブラーニングの学びをする日本人
留学生（ハーバード、コロンビア等の
アイビーリーグ、MIT、リベラルアー
ツ系大学）及び高校生（相馬・仙台・
東京の高校生と灘校生4名）が参加。
まだプロトタイプ段階ではありま
したが、フィールドワーク、映画、対
話（質疑応答）、レクチャー、グルー
プワーク等、多様な学習方法で学生
たちは、天栄村の田んぼ再生の全体
像を把握し、自らの生き方・学び方
をリフレクションできました。

次回以降、海外でプロジェクト学
習を学ぶ留学生の企画段階からの参
画により、天栄村再生へ協力するプロ
ジェクトの提案を充実させていきたい
と考えています。

ワークショップ1 「田んぼ再生の取り組みの全体像を理解する」 各グループの発表



行く前は「私にできることは
なにか現状を見て考えたい」と
思っていたが、なんて上から目
線なことを考えていたのだろう
かと恥ずかしく思った。それよ
りも現状を正しく理解して、そ
こから何を学べるか、と考える
べきだった。そしてそれを踏ま
えた上で「私に何ができるか」
をこれからの長い人生の間で多
くを学んでいく中で考えたいと
思った。

英国キングスカレッジ1年 後藤悠香
吉成課長は、はつきりとした
信念や展望を持っていて、それ
を周りの人に伝えることで共感
を得られた。先導を切って自分
の方針を打ち出し、周りをガン
ガン引く張るわけではなく、素
朴で謙虚な姿勢で周囲を自然に
惹きつけている。そんな吉成課
長のリーダーシップのあり方が
印象に残った。

天栄村の人々は、県などの動
き待つのではなく、自分たち
から除染活動を始めるなど行動
を起こしていた。周りの人をも
巻き込みながらうまく流れをつ
くり、地域全体に貢献されたと
分かった。手探りで工夫を積み
重ねながら状況を前へ前へと進
めようとする姿勢に、「人間力」
の強さを感じた。 高校1年

物凄く強い思いを持った人た
ちに支えられていると感動し
た。除染など復興に向けて課題
は多く残るが、「今までの姿に
戻る」というマインドセットよ
りも「福島をどうよくするか」
というゼロベース思考があって
素晴らしい可能性を感じた。

コロンビア大学2年 加瀬彩乃

「天栄村プロジェクト学習@福島」に参加して…

緒に数学の宿題をしたり、おば
あちゃんと星を見に行ったり、
ご家族一人一人と時間を持つこ
とができ、天栄村での居心地の
良さが増した。

ハーバード大学1年 野田萌佳

素晴らしい経験でした。特
に、僕の泊まった家はとてもフ
レンドリーで家族のように暖か
く、「天栄村のお父さん、お母
さんと呼んでね」と言われまし
た。お二人は、「またうちに帰っ
ておいで！友達も連れてきてい
いよ！次来るときは、ただい
ま、って言うんだよ」と言って
くれました。 高校1年

民泊がよかった。その村なら
ではの料理や風習を体験でき
たり深い話をゆっくりしたりで
けるのは素晴らしいと感じる。た
だ、どうしても地域住民の方へ
負担をお願いすることになるた
め、そのあたりは検討が必要か
もしれません。今回は本当にお
世話になりました、ありがと
うございました！

ハーバード大学1年 高島峻輔

来年もあるなら
ぜひ参加したいです
高島



立命館大学附属校の
アクティブ・
ラーニング型授業



立命館宇治高校・小竹知紀教諭による、理科コース物理のアクティブラーニングの様子。
グループは固定されたものではなく、生徒たちはアメーバのようにくっついたり離れたりしながら、自由に教室を動き回り、自分自身の「わかった!」を求めて議論しています。

生徒が自分たちで 答えを見つける、 主体的な学びへ。

反転学習、学び合い、プロジェクト型学習、
ワークショップ型授業など、立命館大学附属校で
アクティブラーニングに取り組む5人の教諭が集結。
それぞれの実践を、アクティブラーニングと利他との
接点を含めて報告・共有し、新しい学びのカタチを探ります。

スマートフォンやタブレットも、
アクティブラーニングの
重要なツールになってきています。



小竹知紀教諭の報告

予習をもとに授業時間に議論し、
解決していく反転学習を徹底

私は今、立命館宇治高校理科コースの物理で、反転学習※1を取り入れたアクティブラーニング型授業に取り組んでいます。基本的な方針は「教科書精読による徹底理解」と「美しく論述解答をする力の育成」。生徒たちは予習をもとに、自分の理解や不明点について議論し、解決していくという流れ。グループは指定せず、生徒の自由にさせています。

「この公式を導く過程の根拠は」、
「定義に戻って考えてみたら」、

の数式が表す意味は、「自分の理解が正しいか聞いてくれる?」など、生徒たちの会話を聞いていると、大学の文献精読ゼミのようです。先生よりも友達同士のほうが自由に質問できるのでしょね、教室内の会話はとても活発です。

このスタイルを続けるうちに生徒たちは、「大抵のことは、教科書と自分たちの議論(と少しのネット検索)を通して解決できる」ことに気づきました。たまに全員がギブアップして助けを求めに来ますが、そのときも反対に生徒に質問を投げかけます。それに生徒が答えていくうちに、「あつ、わかった!」と自分で答えを発見して

※1：反転学習 授業の前に映像を見たり書籍を読んで予習し、授業時にはディスカッションやワークなど、対面でないとできないものを行う学習方法。

アクティブラーニング型授業に変えてから、
休憩時間にも気づかない時もあるほど、
集中して学びに向かうようになりました。

小竹知紀教諭
立命館宇治中学校・高等学校 / 理科



いくのです。

一斉講義は、生徒の理解のペースに関わらず、同じ速度・内容で進みます。意欲が高く飲み込みの速い生徒はヒマを持て余し、じっくり理解する生徒は置いていかれる。ペースが合う生徒も、分かった気でノートを取っているだけかもしれない。自分の頭で考えているとは限りません。

そこで私は、理解の速い生徒には「学年を越えてどんな先に進んでいいよ」と言っています。すると彼らは高校物理を終え、今は大学レベルの内容を自分たちで学んでいます。先日は数理モデルの構築に必要な常微分方程式の解き方と現実世界への応用例を議論していましたよ。

ゆっくり理解する生徒は、同じような仲間と一緒に考えたり、得意な生徒から教わって、彼らのペースで理解します。一斉講義では10のうち1しかキャッチできなかった生徒も、仲間と学べば3や4の理解まで進みます。「協働」はアクティブラーニングの重要なキーワードですね。

人には、ビジュアルだと理解しやすいとか、聴くとわかるとか、認知の癖があります。それぞれの特性を踏まえた学びのスタイルを確立するためには、学びを個別化していくことが重要だと私は考えます。授業開きでは「生徒は教科担任を選べない。自分に合う先生がいたらその人に教わりなさい。他の先生もインターネット授業も紹介する」と語ります。

本校の大学内部推薦のシステムでは、11月には進路学部がほぼ決まり、進路によって物理の必要性が異なります。そこで、理系学部に進まない生徒たちには「後輩のために物理基礎の全単元の解説ビデオを作る」という課題にグループで取り組んでもらいます。後輩のために、という利他の目的がモチベーションになりますね。実際に進めていくと、意見が対立したり、当てにならない人がいたり、提出直前に不備を発見したり、いろいろな問題が出てくる。それらの問題を自分たちで解決するプロセスにこそ学びがあると思います。

生徒たちは、将来職に就いたとき、新しい環境でさまざまなことを一から身につけていくことになります。そのとき自分の能力を最大限に引き出せるよう、得意な学びの型を作り、協働して集合知を活かす体験を、高校生のうちにしてほしいですね。

仲田毅教諭の報告

子ども同士で学び合う中で、
人と関わる力を身につける

私は前職の大学院派遣事業で、上越教育大の西川純教授に師事し、「学び合い」※2を学び、10年前から新潟の進学校で実践を始めました。

教員が一方的にインストラクトしなくても、生徒たちは、情報を検索し、調査するスキルや、人と関わる力を身につけていきます。学力をつける方法や、困った時には助け合うということも、生徒同士の学び合いの中で、気づくことができます。

立命館宇治高校には、個人を尊重



立命館宇治高校・仲田毅教諭の授業(英語)。
クラス全員の学びの到達度も、生徒たちがチェックして進めています。

しつつ、皆で協働していく雰囲気があります。「自分の目的を達成するためには、他人と関わり助け合うことが重要」ということが生徒に共有され、利己と利他の二項対立を超えていることができています。この校風が、アクティブラーニングを進めるのに有利に働いていると思います。

特に理科コース2年生は、教科担当3人(小竹教諭・物理、仲田教諭・英語、田内教諭・国語)が連携して実践していることもあり、自由にコミュニケーションしながら、主体的

※2：『学び合い』 上越教育大学の西川純教授が提唱する考え方。ペアワークやグループ学習による一般的な学び合いとは異なり、自然発生的なグループでの学び合いを指す。

子ども集団は、本来有能。
教師が教え過ぎることが、
学びを妨げているのではないか?

仲田毅教諭



地域とつながるプロジェクト型学習で、
ITスキルだけでなく、
ソーシャルスキルも育成したい。

小林誠教諭



立命館中学校・高等学校／情報

に学ぶことが当たり前になりつつあります。大学受験というせっぱつまつたものがないというのも、うまくいく理由のひとつではあると思います。こういう学びを進めていくと、クラスや学年という機械的な分け方がふさわしいのか考えますね。クラスや学年があるから、いろいろな問題が出てくるのではないかと。

実は、学び合いも、グループを指定すると、かえってうまくいかないですよ。グループから自由に離脱できることを保障してあげないとだめなんです。そうしないと、グループの中の人間関係がおかしくなった時、辛い思いを抱えたまま、その場にいなければならない。それに、そもそも人といくとストレスになる子もいて、そういう子はひとりやらせてあげないといけない。でも、他の子が「教えて」って来たら教えてあげてねって。

フリーにした場合、最初はもちろん、仲のいい子同士で集まります。

したおもしろい授業づくりに、学校全体で取り組んでいます。「iPad + R」という教員向けレポートに、ひとりひとりの実践報告を掲載してシェア。教員同士、お互いの授業を見せ合う雰囲気になってきています。これからは、ここに「理論」を入れていかないとけない。教員チームで子どもたちのキャリア教育ともつながる「理論化」に挑戦したいと考えています。

一斉授業からアクティブラーニングへ、と言いますが私はプロジェクト型学習（PBL）を研究していましたので、実はそのような授業しか

でも、そのうち仲間内だけではわからない問題が出てくる。すると、当初のグループを超えて、アメーバのように別のグループに議論しに行く。そうやって課題を与え続けていくと、その時その時の課題、学びの状況に合わせて、仲の良さではなく学びが深まるグループで議論をするようになってきます。

さらに興味深い事例があります。いろいろなグループとコミュニケーションをとって、全員の学びの状況を把握し、それぞれの学びが深まるよう調整する子が出てきたんですよ。このようなスタイルでの学びを何度も、長期間重ねていくと、皆の考えるようになるんです。まさに利他。

小林誠教諭の報告

情報科の授業も、題材次第でコミュニケーション教育になる

立命館高校では、昨年度に長岡京

に移転したこともあり、高1の情報科で、地元の商店街のホームページを作っています。授業の中で完結するのではなく、作成段階で店の人とやり取りもしますし、自分たちが作ったもので相手に喜んでもらえる。このプロセスで「利他の喜び」を感じ、モチベーションになっているのではないかと思います。1店舗を4人のチームで担当し、学年全体で61店舗のホームページを作りました。

お店の方と相談し、何度もやり取りをしながら作るわけですが、その中でだんだんと社会性ができてきました。当初は、実在の店舗のホームページを作ることがプレッシャーになる子もいましたが、お店の方とコミュニケーションを重ね、お店やお客様の立場に立つてコンテンツや見せ方を考えていくうちに、いいものを作ってお店の人の役に立ちたい。そんな思いが強くなっていったようです。

すべての学びは
セルフ・ブランディング。
自分が自分の主人公になれ！

立命館守山中学校・高等学校／理科・メディア教育



知らないんです。子どもたちにはいつも、「自分で知識やスキルをつかみ取れ！」と言っています。そして、「何のために学ぶのか？」を自問自答させ、自分だけでなく、誰かのために学んでいることを自覚してもらうようにしています。例えば、「不治の病を治す」なら、「誰かのために研究して、薬を作り、商品として届け、利益をあげる」というプロセスを理解することが重要だと思っています。

酒井淳平教諭の報告

カタログ的な職業紹介から、働く意味を問うキャリア教育へ

私は立命館学園にきて17年目になります。2008年度からキャリア教育を担当することになり、2013年度からは高1の総合学習の時間に毎週、働くこと・学ぶこと・生きることを考えるキャリア・サービス・ラーニングというキャリア教育授業を行っています。最初は「お

金のため」に「学ぶ、働く」という考えからスタートしますが、授業を通して「社会のため」という視点を持ち、視野が広がっていきます。大切なのはボランティア体験なのですが、生徒が自分で見つけて体験することを重視しています。商店でボランティアをしている生徒、フリーパー（うじぶら）のコーナーをもらい、気になる店の取材をして自分たちで記事を書いている生徒などがいます。ここで、情報誌の編集や商店の経営を体感することが、自分のキャリアを考える素材となる。そう考えています。

これからのキャリア教育では、夢を一筋に追いかけるというシナリオだけでなく、夢に破れた時、あるい



立命館守山高校・倉本龍教諭の実践。生徒の回答のカテゴリーズや映像づくりなど、iPadの機能を活かした学びを展開しています。

倉本龍教諭の報告

お互いに授業を見せ合い、
教員同士で学び合う

立命館守山中学校・高等学校では、1人1台iPadを配り、アクティブラーニングの実践を始めています。ICT夢コンテスト2015で、NHK賞に内定した『ICTが実現する、立命館守山、白熱教室！』の犬飼先生をはじめ、ICTを活用



立命館宇治高校・酒井淳平教諭のキャリア教育授業の様子。見学に来た他校の教諭も、生徒と一緒にディスカッションしています。

「働く」「学ぶ」「生きる」に焦点を当て、
ワークや対話を通して、
深く考える、キャリア教育を。

立命館宇治中学校・高等学校／数学・キャリア教育



最後に
平日19時、授業終了後に各校から立命館大学大阪いばらきキャンパスに集まっていたいただいた先生方。熱いトークは予定の2時間を超え、それでも語り足りない様子が印象的でした。今後もテーマを変えながら、立命館大学附属校教諭による教育トークセッションを、紙上開催していきます。ご期待ください。

聞き手：稲盛経営哲学研究センター

副センター長 倉石 寛
教授（RITALABO担当） 金井文宏

稲盛さんは今まで、書籍はもちろん、学校での講演等を通して、

ご自身の教育に関する考え方や思いを語ってきました。

稲盛さんの言葉は平易で、メッセージはシンプル。

それ故に力強く、子どもたちや保護者の心に響くようです。

稲盛さんの言葉を、そのまま多くの人に届けたい――。

そんな思いから、

稲盛経営哲学研究センター教育実践研究誌「R-I-T-A」創刊を記念し、

2015年10月30日に開催された、

京都市立桃山中学校での講演録をお届けします。

君の思いは必ず実現する

稲盛経営哲学研究センター名誉研究センター長 稲盛 和夫

「思う」ということを

大事にして生きてほしい

こんにちは。私は桃山中学校の近くの桃山島津町に住んでいて、しょっちゅう校門の前を車で通っています。地元として大変愛着をもって、この中学校を眺めています。

地元として同じ町に住む、中学校の在校生の皆さんに、どんな話をしてあげればいいかと考えましたが、「思い」について話してみたいと思います。

皆さんは、学校で一生懸命勉強されています。われわれは勉強をするとき、頭、脳を使って思索をする、または考えるということをしていますが、今からお話するのは、頭で考えるのではなく、「思う」ということについてです。

思うということは、頭でするものではありません。「心に思い描く」という言葉があるように、頭とは関係のない「心」ですることなのです。これはとても大切なことですが、皆気がついていません。学校で勉強する場合を考えても、頭が良いことは非常に大事だと言われますが、思うことが大事だとは言われません。

今日は、思いというものが、個々人の人生にとってどれだけ大事なことかということをお話しますので、それを心していただき、思うということを大事にして、人生を生きていただきたいと思います。

人間の心には

「利己」と「利他」がある

われわれは日々、いろいろなことを思うわけですが、その大本である心を深く掘り下げると、一番奥底に「真我」

今回、講演をすることになったのは、校長先生が大変ご

熱心だったからです。私の家まで何回もお越しになり、「何としても子どもたちに話をしてくれ」と私の家内に話をされました。家内がその素晴らしいお人柄と情熱にほだされ、「どうしても、と熱心な校長先生がおっしゃるので、ぜひ行ってあげてください」と言われ、本日講演することになりました。

と言われる、良心のかたまりのようなものがあります。その周囲に、自分だけよければいいという、えげつない「本能」というものがあります。言葉を換えると、良心というのは、他を慈しみ愛する、優しい思いやりの心、利他の心のことです。本能とは、自分だけよければいいという利己的な心のことです。その2つが、どんな人の心の中にも同居しています。

ですから、われわれが思いを描くとき、どちらが作用して形づくられたのか、ということが問題です。皆に対して優しい思いやりをもつ、美しい利他の心から思うことと、本能、つまり自分だけよければいいという、いやしい利己的な心で思い描くことの2つがあるわけです。

日々抱く思いが積み重なって

「人柄」となる

われわれには、このように2つの思いがあるわけですが、私はその中でも、優しい思いやりに満ちた利他の心で描く思いが、人生を大きく左右していくと思っています。

われわれは、思いというものはたいしたものではないと思っています。しかし、思いがその人の人柄をつくっていきます。

例えば、「あの人は嫌だ」「あの人は生意気だ」というよ

うに、日常に思っていることが積み重なり、人柄になってしまいます。自分だけよければいいと思い、威張ったことばかりを思っている人は、えげつない人柄になります。逆に、大変優しい、思いやりに満ちた思いをもっている人は、優しい人柄になっていきます。つまり思いというのは、その人の人格、人柄をつくっていくという、大変大事なもののです。

イギリスのジェームズ・アレンという人が、こういうことを言っています。

人間は思いの主人であり、人格の制作者であり、
環境と運命の設計者である

思いというものは、その人の人格をつくり、同時に環境や運命までつくっていくことです。あまり気づかれていませんが、大変大事なことだと思います。

思いが現代文明、 そして未来をつくる

思いというものが非常に大事なことだということを、時代をさかのぼって考えてみると、これが近代の文明社会をつくった元だと思います。今から250年ほど前の産業革

命以来、人類は次々と発明、発見をし、科学技術を変え発展させました。そして現在、豊かな文明社会を築いています。例えば、「もっと便利なものが欲しい」「早く移動したい」または「鳥のように空を飛びたい」という、ふとした思いから、実現するにはどうすればいいかを、いろいろな人が頭で考えて研究し、飛行機や自動車をつくってきたわけです。

近代文明は、「こうりたい」という、人類のふとした思いが発点です。そういう点を考えても、大変大事なものです。私は人類の未来も、思いというものがつくっていくと思っています。

葛藤する「利己」と「利他」

その思いというものが起こるのが、先ほど言った「心」なのです。心には、立派な、優しい思いやりに満ちた良心または理性、さらには真我というものががあります。これは、心の一番奥にある美しい立派な心です。

その横に、本能というものががあります。これは、人間がその肉体を守るようにするため、神様が与えてくれたものです。肉体を守るためには、食べ物も着るものも要ります。そのように、自分だけよければいいという、非常に利己的な思いが本能の中心なのです。

神様の前に行ったとき、恥ずかしく薄汚い、別の自分と一緒にいてきました。そのことを神様におわびしていると、タゴールは歌っています。

心を手入れる

イギリスの哲学者であるジェームズ・アレンは、心について、このように言っています。

人間の心は庭のようなものです。それは知的に耕されることもあれば、野放しにされることもあります。そこからは、どちらの場合にも必ず何かが生えてきます。

もしあなたが自分の庭に、美しい草花の種を時かなかったなら、そこにはやがて雑草の種が無数に舞い落ち、雑草のみが生い茂ることになります。

すぐれた園芸家は、庭を耕し、雑草を取り除き、美しい草花の種を蒔き、それを育みつけます。同様に、私たちも、もしすばらしい人生を生きたいのなら、自分の心の庭を掘り起こし、そこから不純な誤った思いを一掃し、そのあとに清らかな正しい思いを植えつけ、それを育みつけなければなりません。

「皆のため」と願う美しい心また良心と、「自分だけがよければいい」「自分がたくさん食べ、健康を維持していきたい」と願う心、私はこれらを利己的な心と利他的な心と呼んでいます。「皆がよければいい」というのは利他であり、「自分だけよければいい」というのが利己です。私は、この2つの心が同居していると思っています。

このことについて、インドのタゴールという人が詩を残しています。読ませてもらいます。

私はただ一人、神様のもとにやってきました
しかし、そこにはもう一人の私がいまして
その暗闇にいる私は、一体だれなのでしょう

私はその人を避けようとして、脇道にそれますが、
彼から逃れることはできません

彼は大道を練り歩きながら、地面から砂塵をまきあげ、
私が憤まじやかにささやいたことを大声で復唱します
彼は私の中に住んでいる、卑小な我、

つまりエゴなのです

主よ、彼は恥を知りません

しかし、私自身は恥じ入ります

このような卑小なる私を伴って、
あなたの扉の前に来たことを

素晴らしい環境を周囲につくるには、「自分だけよければいい」という、利己的でよこしまな心を抑え、思いやりにあふれた、美しい利他の心が大部分を占めるよう、「心の庭」を手入れしなければならない、と言っています。人間の心は、庭のようなものです。どうあるべきかということを意識し、コントロールしなければ、雑草の種が舞い落ち、雑草が生い茂る庭になっていきます。

ですからわれわれは、立派に耕し、よい草花の種を蒔いて、きれいに咲くようにする、つまり自分の心が善くなるように手入れをしなければならないと言っているのです。

心は大変大切なものです。実は人生も、それぞれの人が描く思いによって、決まってくるのです。

自分が置かれている環境、境遇、そのすべては、他でもない、今まで抱いてきた思いが集積されたものがつくっています。われわれは「私はなんと不幸な人間なんだろう」「なんでこんな目にあうんだろう」とつい思って、人のせいにしがちです。ですが、心で抱いた思いの結果が、現在置かれている境遇をつくり、その人の人柄、人格までもつくっています。ですから私は、ジェームズ・アレンを読み、なおのこと思いは大事だと思うのです。

どのような「思い」をもたなければならないか

思いというものは大変大事であり、善い思いを抱くべきです。しからばどういう思いでなければならないか。それが、世のため人のためという思いです。自分のためだけではなく、世のため人のためということが、大変大事なのです。

後で詳しく話をしますが、京セラをつくり発展させていく過程で、皆さんがお使いの携帯電話a uというブランドを扱っているKDDIという会社を、ゼロからつくりました。先般は、倒産した日本航空を再建いたしました。そういうものを成し遂げていったのが、私の思いでした。

実は、中村天風という大変有名な、ヨガの聖人と言われた方がいます。ヒマラヤ山中でヨガの修業をされ、日本に帰ってこれた、波乱万丈の人生を送った人です。

明治時代に生まれ、良家の出身ですが、若い頃から手に負えない、大変な暴れん坊でした。腕力があり、日本刀を使わせたらかなう者はおらず、日露戦争が始まる前に満州へ行つて、「人切り天風」と言われるくらい勇名をはせました。ところが、日本に帰ってから、猛烈な結核にかかってしまいました。血を吐く重い結核になってしまい、強かった天風さんは、へなちょこになってしまいました。

皆さんは中学卒業後、さらに上級の学校へ行かれるでしょうし、その後は社会へ出ていろいろな経験をし、家庭をもつと思います。そういう新しい計画を立派に果たすには、どんなことがあろうと曲げない、強い意志が必要です。そうであるがゆえに、ひたむきにただ思う。それも、気高く強く、美しい思いを一筋に抱く。私はそれが大変大事なことだと思っています。

日本航空へ携えていった不屈不撓の教え

日本航空が倒産したとき、「再建をお願いしたい」と、私は日本政府に頼まりました。私は、航空運輸事業はまったくの門外漢で、何の知識もありませんし、日本航空とは何の縁もなかったわけです。しかし、政府からそう言われ、大変悩みました。日本航空は倒産し、1万6000名の社員に任意で辞めてもらいましたが、3万2000名の社員が残っていました。

将来のことを考えれば、その人たちの雇用を守ってあげなければいけない。そう思つて、航空運輸事業は何もわかりませんが、お引き受けしました。「お手伝いはさせてもらいますが、給料は要りません。給料はなしで一生懸命やらせてもらいます」と言つて、日本航空に着任しました。そ

天風さんは、なんとか病気を治そうと海外まで行つて、ヒマラヤ山中で最高のヨガの修業をされて、帰国されました。日本では、銀行経営などいろいろなことをし、成功されたのですが、晩年はそういうものをすべて投げ捨て、東京で辻説法をされました。街をゆく人たちに、「人生はこうあるべきですよ」ということを、一生懸命、説かれたのです。先ほども思いというのが大事と言いましたが、天風さんも、何をするにしてもこういう思いでやりなさいと言っています。

新しき計画の成就是 只不屈不撓の一心にあり
さらばひたむきに只想え 気高く強く一筋に

新しい計画を考え、成功させようと思うのであれば、ただ不屈不撓の一心、つまり矢が降ろうと雨が降ろうと、何があろうとくじけない心が必要です。そうであるがゆえに、ひたむきに一生懸命にただ思え、それも気高くきれいに強く一筋に、と天風さんが言っています。もう1回言います。これはぜひ、今日覚えて帰つてほしいと思います。

新しき計画の成就是 只不屈不撓の一心にあり
さらばひたむきに只想え 気高く強く一筋に

のときに持つていったのが、今読み上げたこの言葉です。

新しき計画の成就是 只不屈不撓の一心にあり

さらばひたむきに只想え 気高く強く一筋に

JALの再建が成功するかどうかは、ただ一つどんなことがあろうと不屈不撓の一心、強い心にあります。そうであれば、ただひたむきにただ思え。気高く強く一筋に、けれん味のない、美しく気高くそして強い思いで、一筋に進みなさい。この天風さんの言葉を携えていきました。

これを大きな紙に書き、JALの各職場にかかげました。今日から、幹部の皆さん、全社員の皆さんと一緒に、再建というこの新しい計画を成就させていきたい。つまりJALを再生していきたい。それも、皆さんと一緒に、不屈不撓の一心でやり遂げていきたい。さらばひたむきにただ思え、気高く一筋に。そう言つて始めました。

意気消沈していた幹部社員は皆感激をし、「なるほど、そうであるならば、われわれも強い気持ちでやつていこう」と取り組んでくれました。その結果、JALの再建に成功したのです。

この思いというのは、人生において大変大事だと思つてきました。ですから皆さんには、学問だけではなく、思ひというものもぜひ大事にしていただきたいと思つて、今

た後は、自分でご飯をつくつて食べ、ただ寝るだけという生活をくり返しているうちに、秋口には、私一人になつてしまつたのです。

社員皆は不平を言つていましたが、私は「なんとかこの会社を立派にしなければならない」と思いました。ちょうど研究室に配属になりましたので、「これからエレクトロニクスの時代が必ず到来するだろう。そのエレクトロニクスの世界でたくさん使われ、新しい時代をつくつていくファインセラミックスをつくりたい」と、研究開発を始めました。大変粗末な研究室で、立派な設備はなかったのですが、そこで一生懸命努力をしました。

寮に住んでご飯を炊くのでは間に合わなくなつたので、鍋や釜を研究室に持ち込みました。そこで自炊をし、研究に打ち込みました。

先ほど中村天風さんが言われたように、

新しき計画の成就是 只不屈不撓の一心にあり

さらばひたむきに只想え 気高く強く一筋に

まさにこれを地でいったわけです。当時はまだ知らなかつたのですが、そうせざるをえなかつたわけです。

何としても、新しいファインセラミックスの材料を完成し、社員や会社を救つてあげたいという、とてつもない希

日はまいりました。

松風工業でも

不屈不撓の一心で研究した

私は、ここから北の方に見える京セラという会社を、27歳のときにつくつていただきました。私は、鹿児島大学を1955年に卒業しました。1945年に第二次大戦が終つて、日本の各地は焼け野原になっていました。終戦からわずか10年しかたつていないときに、大学を卒業して社会に出たわけですが、なかなかいい職がなく、先生のご紹介で、松風工業という、京都にある会社によつと就職できました。

その会社は、電力線の絶縁をする碍子をつくつていた会社です。終戦後ずっと赤字続きで、私が入つた月も、給料が払えないから1週間、給料日を延期するというような状態でした。

そういう会社に、一緒に5人大卒が入つたのですが、皆不平不満ばかりでした。4月に入社して、秋口には5人のうち4人が「給料が1週間も2週間も遅れるボロ会社は嫌だ」と言つて辞めていきました。私は鹿児島から出てきましたので、会社の寮に住んでいました。会社から帰つてき

望、思いを抱いて、一生懸命努力をしました。その結果、大変難しい研究でしたが、日本で初めて、ファインセラミックスの開発に成功しました。それはアメリカで最も進んだ、ゼネラルエレクトロニクス(GE)社よりも優れたものでした。私はさらに研究し、次から次へと新しいファインセラミックス材料を開発していきました。

思つたことを一生懸命、一途に努力すれば、
どんなこともできる

その結果、京セラという立派な会社をつくることができました。京セラという会社は、私の研究を高く評価してくださつた方々から、「君がやっているファインセラミックスをベースに、新しい会社をつくつてあげるから、そこでもつと立派な仕事をしたらどうか」というお誘いがあつて、設立された会社です。松風工業の小さな研究室で、鍋釜を持ち込んで研究した成果をベースにつくられたのです。

松風工業では、鍋釜を実験室に持ち込み、炊事をしながら研究したと言いましたが、その食事とは、小さな七輪で炊いたご飯と、刻んだネギの葉っぱを入れた味噌汁だけでした。それを朝昼晩と食べ、研究に打ち込んでいったのです。何としても今やっている研究を完成させたい。何百人という社員の将来を救つてあげたいと思ひ、一生懸命努力をし

て、次から次へとファインセラミックスの研究開発をしました。

この会社で、人がつくれない新材料の開発を成功させ、この会社を救ってあげたい。従業員皆が、喜んで生活できるようにしてあげたい。まだ大学を出て間もないくせに、生意気にもそういう思いを強く胸に抱いていました。

それが原動力となって、研究は成功していきました。また、私の努力と成果を見た人たちが、「せっかくここまでやってきたのだし、会社をつくってあげるから、そこでもっと実力を発揮したらどうか」と言って、一銭も持っていない私のために、京セラをつくってくださいました。

京セラは、現在、今期の売上が1兆5000億円を超え、利益が1000億円を超える素晴らしい会社になっていきます。立派な製品をつくりあげ、会社を救いたいという私の若いときの思いが、現在の素晴らしい会社をつくってきました。思うということには、大変な力があります。思ったことを、一途に達成しようすれば、どんなことでもできるのです。

国民のため通信料金を安くしたいという純粋な思い

もう一つ例をあげると、現在のKDDIは、30年ほど前

いう純粋な思いからではありますが、大変難しいいばらの道だということは承知の上でした。美しい思いを抱き、天風さんの言葉にあるように、ただひたすら一生懸命、真っすぐに信じて努力をしていきました。その結果、第二電電を成功に導いていったのです。

余談ではありますが、京セラは第二電電をつくった当時から大株主で、現在もKDDIの筆頭株主として、時価に換算すると約1兆円の価値の株式をもっています。第二電電という会社をつくって、京セラが筆頭株主になった結果、素晴らしい資産をつくりあげたのです。これも、思いというものが大変大事であることの例として申し上げました。

「思い」の力はわずか3年で会社を再建した

日本航空も、再建してほしいと言われたものの、私は何回も断りました。ですが、「世のため人のためになることをするのが人間として最高の行為である」と、あなたはいつも言っているではありませんか。難しいかもしれませんが、再建に力を貸してほしい」と政府に頼まれ、私は引込みがつかなくなりました。

そして先に述べたように、航空運輸業は門外漢であり、自信がなかったものですから、「3年間精魂を込めて再建に

に電気通信事業の経験も知識もなかった私がつくったものです。当時の日本では、通信や電話はNTTが独占していました。独占では通信料金は高止まりしてしまうので、競争条件を入れることによって、何としても通信、通話料の料金を下げたいと思っていました。

NTTは明治以来ずっと電話を独占していましたので、大変な技術力、財務力をもっていました。自由化したといっても、挑戦しようという会社はありません。私は「このまま一社独占が続いたのでは、国民のためにならない。なんとか競争を挑んで、料金を安くしてあげなければ、国民のために良くない」と思っ、無謀にもNTTに対抗することを考えました。

当時、京セラは京都の中堅企業でしかありませんでしたが、東京で経済界の人たちに、「NTT独占であっては日本の通信は決して成長していきません。対抗できる新しい会社をつくって、日本の通信業界に刺激を与え、通信料金を安くしていかねばならない」と説き、賛同をもらいました。

当時のSONYの盛田社長などいろいろな人たちが協力してくださり、現在のKDDIの前身である第二電電という会社ができました。そこから、京セラが主体になって、第二電電、現在のKDDIをつくりあげていきました。

日本の国民のため、電気通信料金を安くしてあげたいと

取り組みますが、お金は一銭も給料も要りません。無給でやらせていただきます」と言っ、引き受けたのです。

私が日本航空を再建したのは、3つの大義があると思っ、たからでした。まず、JALが倒産してしまえば、日本経済に大変悪い影響を与えます。2番目に、日本航空に在籍する3万2000名の社員の雇用を守ってあげる必要があります。さらに、日本航空が無くなり、航空会社が1社だけになってしまえば、値段が高止まりして、飛行機を利用する国民の利便性が失われてしまいます。

当時私は80歳を前にしており、高齢ではありますがなんとか頑張ろうと思いました。そこで先ほど言いました、

新しき計画の成就是只不屈不撓の一心にあり

さらばひたむきに只想え気高く強く一筋に

という天風さんの言葉を、社内にかくさん貼り出しました。また、こういう考え方で私はやっていきますので、皆さんも同じ思いでやっていただきたいと申し上げ、やってきました。

そして、わずか3年に満たない短い期間で、倒産した日本航空を再建できました。東京証券取引所に再上場して、大変高い株価を維持できる、新しい立派な会社になることができました。

心をきれいにし、一生懸命努力すれば、 思いは実現する

そういう実例もあるだけに、この中学校で勉強される皆さんに、「思い」というものがたいへん人生にとって大事だということ、今日は伝えたくてまいりました。

先ほども言いましたが、皆さんが心に抱く思いということで、その人の人柄がつくられていきます。つまり、えげつない人柄になるのは、常に自分の心に、えげつない思いを抱いているからです。「あの人はいい人だ」「立派な人だ」と好かれる人柄になっていくと思うならば、常にいい思いを抱く努力をしていくのです。

学校では、頭を使って勉強しなさいとよく言われますが、「心をきれいにしていきましょう」「心を整えましょう」とは、なかなか教わりません。これは、他人から言われるようなことではありません。自分自身で、きれいな美しい心になる努力していくべきなのです。それが、その人の人柄をつくっていきます。

皆さんは今後、中学校を卒業され、次の上級の学校に行かれて、やがて社会に出られますが、社会に出たとき、人柄というものは大変大事です。仲間から「あいつはあの人はいい人だ」と思われるのか、「あいつはけしからん」「あ

の設計者である」と言っています。

人間の心は庭のようなものです。それは知的に耕されることもあれば、野放しにされることもあります。そこからは、どちらの場合にも必ず何かが生えてきます。

もしあなたが自分の庭に、美しい草花の種を蒔かなかつたなら、そこにはやがて雑草の種が無数に舞い落ち、雑草のみが生い茂ることになります。

すぐれた園芸家は、庭を耕し、雑草を取り除き、美しい草花の種を蒔き、それを育みつつけます。同様に、私たちも、もし素晴らしい人生を生きたいのなら、自分の心の庭を掘り起こし、そこから不純な誤った思いを一掃し、そのあとに清らかな正しい思いを植えつけ、それを育みつつけなければなりません。

とも言っています。つまり、自分の心の庭を立派に耕して、立派な美しい、いい心、思いを植えつけ、思いを育みつけなければなりませんと、ジェームズ・アレンは言っています。

われわれは日々いろいろなことを思いますが、思うというものを軽視しがちです。ところが人生において、思いというもののほど大きな力をもつものではありません。その人の

いつはえげつない」と思われるのか。社会に出ていくまでの間に、自分は、心の中に描いた通りの人柄になっていくということ、今日は皆さんに申し上げておきます。

心がもつ力は大きいということを肝に銘じていただき、自分の心に、美しい思いを常に思い描いていただければと思います。いい人柄というのは、利他の心です。優しい思いやりの心が、常に出てくるようにする。えげつない、自分だけよければいいという利己の心ではなく、他を慈しみ愛する、美しい利他の心を常に描いていきさえすれば、人柄は立派になっていきます。

いい思いを心に描いて、いい人柄になっていく。同時に、素晴らしい思いを描いて、達成するために一生懸命努力すれば、その思いは必ず完成します。今は小さなお店だけれど立派な会社にしていきたいと、強く思っただけに努力をしていく。その思いを実現するために、ひたむきに、一生懸命に努力をしていけば、必ず成功します。皆さんには、心というものを大事にし、立派な人生を送っていただきたいと思います。

心は「庭」のようなもの

もう1回言いますが、ジェームズ・アレンという人が、「人間は思いの主人であり、人格の制作者であり、環境と運命

人柄をつくっていく、その人の運命すらもつくっていくま

す。

心の中で何を思おうと勝手だと思われたでしょう。また、ふと思ひ浮かべることも、誰でも簡単にできます。そのため、われわれは思いというものにあまり重きを置いていません。しかし、心に抱く思いというものは大変大事なことです。うことを、私は今日、皆さんに申し上げたかったです。思いを大事にし、常にいい思いを胸に抱いていきさえすれば、皆さんには素晴らしい人生が待っていると思います。

今日は、大変説教がましいことを申し上げました。私自身、ファイナセラムックスの研究に没頭しながら、立派な成果を出すには、心構えが大変大事だと気づきました。実験室で一人黙々と研究するときも、こういう教えを座右に置いていました。

若い皆さんが今後立派に成長されていくために、大変大事なことだと思っただけです。雑ばくな話をしましたけれども、これで終わらせていただきます。

おわり

経営から生き方まで、
読書と対話で、
稲盛さんの考え・思いを
みんなで深掘りする時も。



RITA LABOブッククラブは、
テーマに関心のある方なら誰でも
参加できる一般参加型の読書会です。
お気軽にご参加ください。



RITA LABOでは、ラボ
発足の2015年10月以降、月
1回のペースで、「RITA L
ABOブッククラブ」と題した、
市民の皆さんにご参加いただく
オープンな読書会を、立命館大
学大阪いばらきキャンパスで開
催しています。

読書会のテーマは、「利他」
「教育」「組織開発」など。当研
究センターの名誉研究センタ
ー長、稲盛和夫さんの著書や関連
書籍、稲盛さんの考え方のベ
ースとなっている「利他の心」に
通じる、ソーシャルデザインや
まちづくりなども、広くテーマ
として取り上げています。

RITA LABOブッククラ
ブのスタイルは、主に2つのパ
ターンがあります。ひとつは、



もうひとつは、持ち寄った本
のエッセンスを、参加者全員で
できるだけたくさん集め、さら
に自分の経験や考えもテール
の課題意識が見え、新たなつな
がりが生まれていきます。

また、RITA LABOブッ
ククラブには、研究につながる
ミッションがあります。それは、

本でつながる。研究とつながる。
利他が拡がる
コミュニティへ。

課題本を決め、その本をもとに
テーマについて議論し、深めて
いくもの。同じ本を読んでいて
も、人によって印象に残ってい
る箇所が違ったり、解釈が違っ
たり。自分とは違う視点を得る
ことで、より深く、多角的な読
み方をできるのが、読書会の魅
力です。

RITA LABOの研究課題に
関するテーマを市民の皆さんと
議論し、研究にフィードバック
すること。実験に基づき「意
見を、研究に活かしています」。

今後はさらに、稲盛さんが大
切にしている「利他の心」を、
一緒に実践していくコミュニ
ティとして、育ってくればと
考えています。

子育てや教育に関心がある。
社会や地域の課題を解決した
い。稲盛和夫さんの著書に学び
たい。そんな方、ぜひご参加く
ださい。お待ちしております。

ソーシャルな読書で
学びが深まる



次号の特集は…

利他の心と教育 第2弾

平田オリザの高校生演劇教室／リベラルアーツで日本史を学ぶ

※予告なく変更する場合があります。

RITA LABOブッククラブ
開催予定

3月13日(日) 13:00-16:00

フィロソフィ×アメーバ会計
JAL再生に学ぶ「組織開発」

「JAL再生 高収益企業への転換」(引頭麻実著／日本経済新聞出版社)を課題本に、JAL再生のリアルを、数字と具体的な取り組み、そして成果から紐解き、自らの組織開発に活かせるポイントと一緒に探ってみませんか？

開催場所：立命館大学大阪いばらきキャンパス

B棟5F クロノトポス

課題本：JAL再生 高収益企業への転換

(引頭麻実編著／日本経済新聞出版社)

ホームページ、Facebookページから
お申し込みください

『ごてやん 私を支えた母の教え』

(稲盛和夫著／小学館)



日本を代表する経営者・稲盛
さんの母・キミさんの子育ての
流儀を育てられた稲盛さん(「
子ども」の視点で描いた稲盛「子
育て」哲学。その哲学は、「人
として正しいことをする」「人
を助ける」という非常にシンプ
ルなもの。学歴偏重の教育に疑
問を感じたり、子どもと接する
時間をなかなか取れないワーキ
ングマザー＆ファザーに、指
針と勇気をくれる一冊です。

「ごてやん」とは、鹿児島
言葉で、素直に言うことを聞か
ず、わがままを言うて困らせる
子どものこと。幼少期の稲
盛さんはまさに

「ごてやん」で、家業の印刷工
業を手伝って10数人の従業員を
差配し、9人の家族を支えるキ
ミさんを独り占めするために、
3時間も泣き続けたといいま
す。とはいえ、大忙しのキミさ
んが稲盛さんに割ける時間はほ
んのわずか。それでも稲盛さん
は、キミさんの、差別や道理に
反することは徹底的に闘う正
義感の強さ、人を思いやる優し
さを受け継ぎ、一生懸命働く背
中から多くのことを学んで人生
に活かしていきました。

いわゆる子育てのハウツー本
ではありません。子どもは親
の、大人の背中を見て育ちま
す。だから大人は、正義と
思いやりにあふれた背中を、
子供に見せる必要がある。
それは、いい大学いい会
社に入れるために叱咤激
励するよりも大切なこ
と。そんな当たり前の
ことに気付かせてく
れます。

Person
VOL.01

私の
稲盛
哲学

マイ・フィロソフィ
私心のない判断を行う

京セラ株式会社総務統括本部
環境部環境管理課
布本恭子さん



京セラ・KDDI・JALグループを
哲学経営で率いてきた稲盛和夫さん。
このシリーズでは、社員の皆さんが
稲盛哲学をどのように咀嚼し、
自分のものとしているのか、
仕事での実践についてお話を聞きます。

問自答する
よう、自戒を込めてこの
フィロソフィを選びました。

エコロジー(環境性)とエコ
ノミー(経済性)の両立を追求
しながら持続的な発展をめざす
「環境経営」に取り組む京セラ株
式会社で、環境マネジメントシ
ステムの運用に携わる布本さん。
「入社以来7年、滋賀の蒲生工
場に勤務し、2014年4月に
本社に異動になりました。現在
の仕事は、全工場の環境負荷の
状況の分析、社内ルールの見直
し、社員への啓発など。

布本さんが大切にしている
稲盛哲学が、「私心のない判断
を行う」。布本さんの職場では、
年度初めに1年間特に大事にし
ていくフィロソフィを、社員が
それぞれ1つ選んで決意表明し
ています。ルールを作る立場と
なって2年目、布本さんは、何
が正しいか、本当に必要かを自



布本さんの2015年度チャレンジ・フィロソフィ
と、稲盛経営12カ条を記したカード。ネームブ
レートに挟んで持ち歩き、大事な判断の際に見
返しているそうです。

利他ラボ

RITA LABO

RITA LABO は、稲盛経営哲学研究センターの教育実践研究部門として、
利他の心を軸に、教育の未来を切り拓きます。

<http://www.ritalabo.jp>

お問い合わせ: contact@ritalabo.jp

発 行: 立命館大学 OIC総合研究機構 稲盛経営哲学研究センター RITA LABO (リタラボ)

大阪府茨木市岩倉町2-150 立命館大学 大阪いばらきキャンパス

編集人: 金井文宏、奥野美里